



(百万円)	FY23/2Q	FY24/2Q	FY25/2Q	FY26/2Q	前期比較	
売上高	85,422	86,618	87,764	91,336	3,572	4.1%
売上原価	49,852	53,299	49,238	50,486	1,248	2.5%
販管費	16,339	18,477	19,104	21,136	2,032	10.6%
営業利益	19,230	14,840	19,421	19,713	291	1.5%
経常利益	22,243	18,494	20,607	23,647	3,039	14.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	9,791	7,142	7,592	11,917	4,324	57.0%

※FY=会計年度：FY26は2025年4月～2026年3月の期間
※百万円未満を切り捨てて表示しております。

2026年第2四半期連結決算の特徴

売上高

映画事業が前年同期よりも減、コンテンツ事業が好調だった昨年に比し減となった一方、興行関連事業、建築内装事業が好調で前期比4.1%増となった。

営業利益

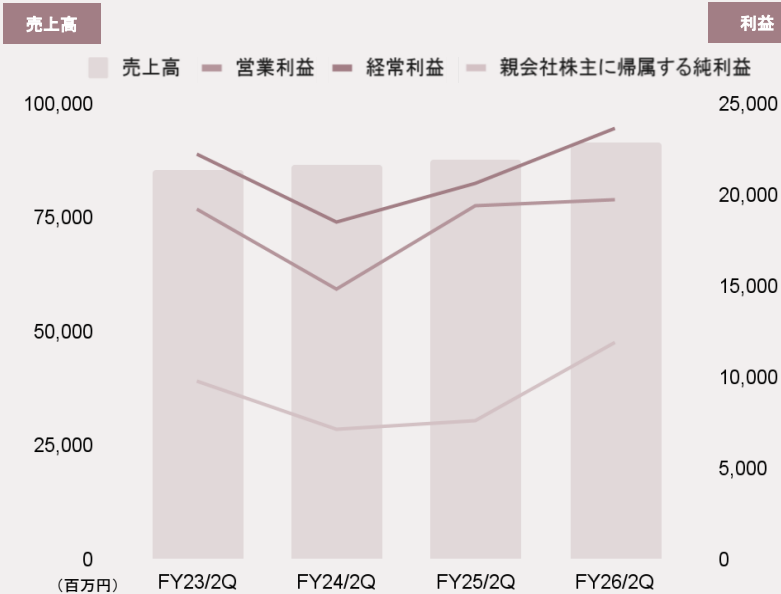
地代家賃、広告宣伝費が増加し、販管費は増加したものの、興行関連事業、建築内装事業の増益により、営業利益は前期比1.5%増となった。

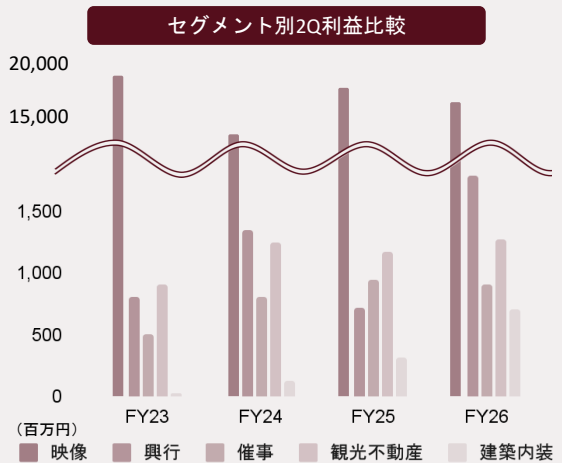
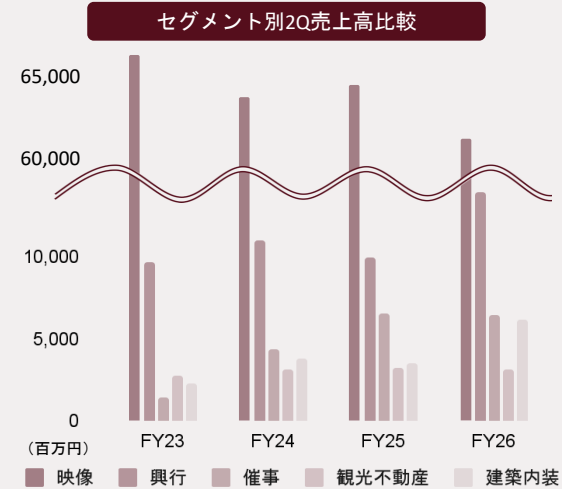
経常利益

持分法投資利益の増加に伴い、経常利益が前期比14.8%増となった。

親会社株主に帰属する中間純利益

不動産売却益により前期比57.0%増となった。



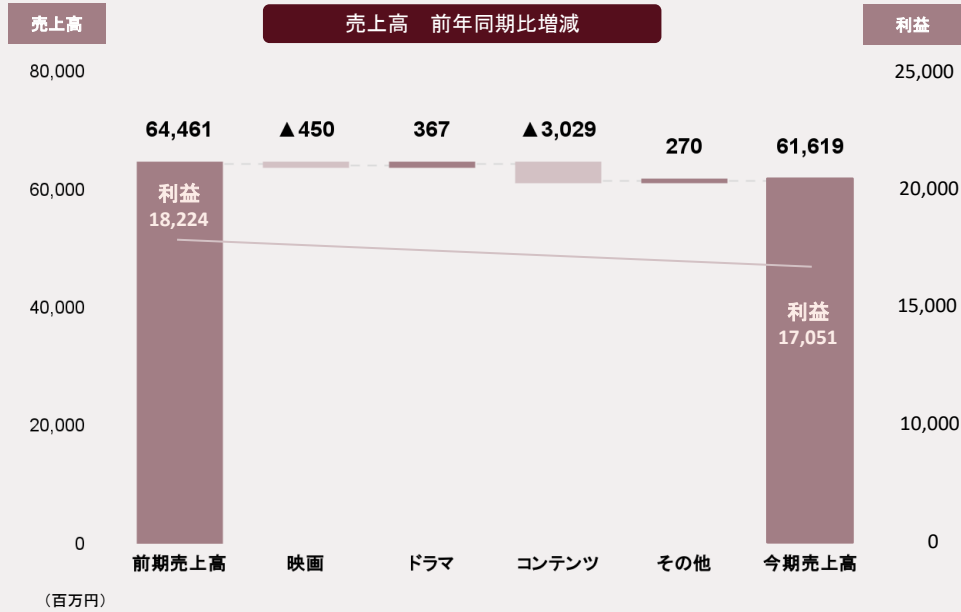


セグメント	サブセグメント	FY25/2Q	FY26/2Q	増減	比較増減	サブセグメント割合	分析コメント
映像関連事業	映画	2,325	1,875	▲450	▲19.4%	3.0%	映画事業は振るわなかった。コンテンツ事業の配信やアニメ版權は好調だった前年同期の反動減となったが堅調に推移。
	ドラマ	4,296	4,663	367	8.5%	7.6%	
	コンテンツ	48,228	45,199	▲3,029	▲6.3%	73.4%	
	その他	9,610	9,881	270	2.8%	16.0%	
	売上高合計	64,461	61,619	▲2,841	▲4.4%	100%	
興行関連事業	利益合計	18,224	17,051	▲1,172	▲6.4%		
	売上高合計	9,943	13,998	4,054	40.8%	100%	『劇場版「鬼滅の刃」無限城編 第一章 猗窩座再来』『国宝』他の大ヒットで大幅に増収増益。
催事関連事業	利益合計	717	1,788	1,070	149.3%		
	催事	5,652	5,778	126	2.2%	89.5%	『超クウガ展』『爆上戦隊ブンブンジャー ファイナルライブ』他催事における動員・物販が好調。映画村は、リニューアル工事によるエリア縮小が影響し減収減益。
	映画村	920	676	▲244	▲26.5%	10.5%	
観光不動産事業	売上高合計	6,573	6,454	▲118	▲1.8%	100%	
	利益合計	948	905	▲43	▲4.6%		
	不動産賃貸	2,245	2,091	▲154	▲6.9%	67.4%	不動産賃貸が堅調に推移。
	ホテル	997	1,009	11	1.2%	32.6%	
建築内装事業	売上高合計	3,243	3,100	▲143	▲4.4%	100%	
	利益合計	1,173	1,268	95	8.1%		
	売上高合計	3,542	6,162	2,620	74.0%	100%	大型工事の完成により増収増益。
建築内装事業	利益合計	316	706	389	123.2%		
	売上高合計	87,764	91,336	3,572	4.1%		
全体	利益調整額	▲1,958	▲2,007	▲49			
	利益合計	19,421	19,713	291	1.5%		

※百万円未満を切り捨てて表示しております。



(百万円)		FY25/2Q	FY26/2Q	増減比率	
映像関連事業	売上高	64,461	61,619	▲2,841	▲4.4%
	利益	18,224	17,051	▲1,172	▲6.3%



公開日	興行収入 (2025/9末時点)	作品名
4月25日	6.3億円	『花まんま』
6月27日	5.4億円	『でっちあげ〜殺人教師と呼ばれた男』
7月25日	6.5億円	『映画『仮面ライダーガヴ お菓子の家の侵略者』/ 映画『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー 復活のテガソード』』
9月12日	9.3億円	『映画キミとアイドルプリキュア』お待たせ!キミに届けるキラッキライブ!』
9月19日	4.2億円	『宝島』



映像関連事業の分析

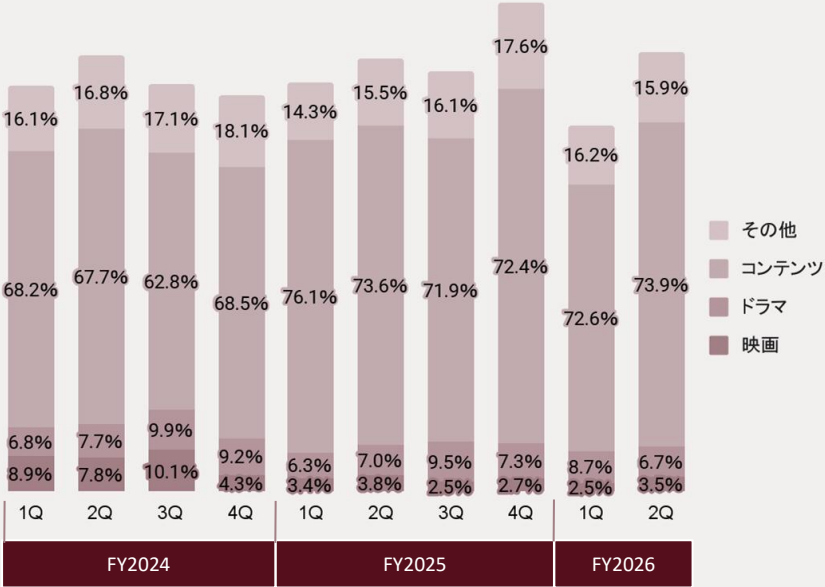
- ▶ 映画事業
配給収入の減少により売上高減となった。
- ▶ コンテンツ事業
アニメ作品は、海外ゲーム化権・商品化権販売が好調だったが、国内の配信権販売や商品販売の反動減により減収となった。
実写作品は、『室町無頼』他新作の国内配信権販売が好調だった。



サブセグメント別売上高比較

映像関連事業	(百万円)	FY25/2Q	FY26/2Q	増減比率	
	映画	2,325	1,875	▲450	▲19.4%
	ドラマ	4,296	4,663	367	8.5%
	コンテンツ	48,228	45,199	▲3,029	▲6.3%
	その他	9,610	9,881	270	2.8%

サブセグメントシェア推移



映像関連事業のサブセグメント別分析

映画

『映画キミとアイドルプリキュア♪お待たせ！キミに届けるキラッキライブ！』がヒットしたものの、『帰ってきた あぶない刑事』があった前年同期と比べ配給収入が減少し、前年同期比減。

ドラマ

アニメ作品は前年同期と比較して放映作品数が減少。
実写は『仮面ライダークウガ』の周年施策や、旧作の企業広告へのキャラクターライセンス、ゲーム化権が堅調。

コンテンツ

▶ 国内
アニメは、前年同期に好調だった『THE FIRST SLAM DUNK』等の国内配信権販売の反動減。また『ワンピース』『ドラゴンボール』シリーズの商品化権販売・ゲーム化権販売が前年同期比減。
実写は『室町無頼』等新作の配信権販売が好調。

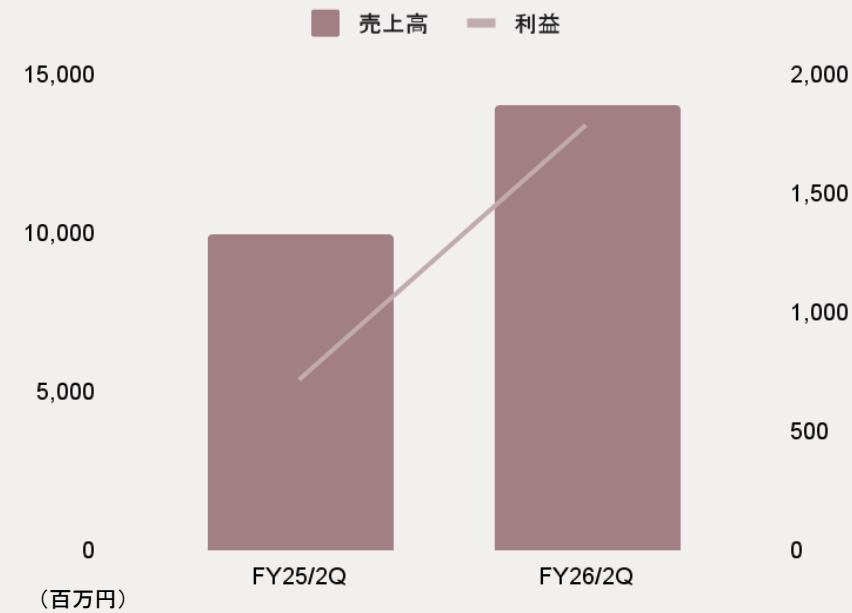
▶ 海外
『ドラゴンボール』シリーズのゲーム化権販売、『ワンピース』『デジモン』シリーズのアニメの商品化権販売が好調。配信は『ワンピース』が好調。

その他

『スラムダンク』の商品販売が前年同期比で減となったが、『プリキュア』のショッブ事業が好調に稼働。アニメの催事等も好調となった。



(百万円)		FY25/2Q	FY26/2Q	増減比率	
興行関連事業	売上高	9,943	13,998	4,054	40.8%
	利益	717	1,788	1,070	149.3%



興行関連事業の分析

株式会社ティ・ジョイによるシネマコンプレックス（共同経営・共同運営）の運営が中心。

23サイト230スクリーン体制（2025年9月末現在）で展開。

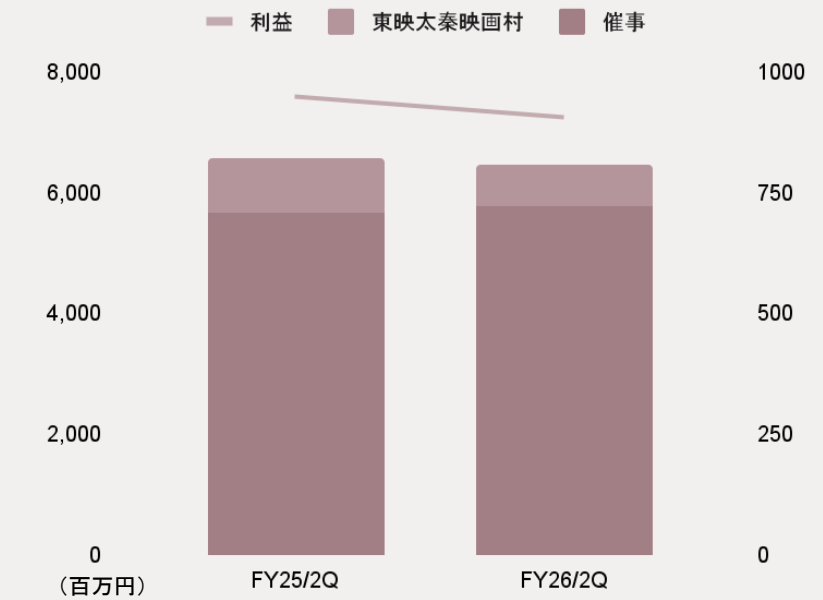
※東映株式会社の直営館は2025年7月27日をもってすべて閉館

『劇場版「鬼滅の刃」無限城編 第一章 猗窩座再来』『国宝』が大ヒットし、また『名探偵コナン 隻眼の残像』『ミッション・インポッシブル/ファイナル・レコニング』等が高稼働した。加えて昨年開業したT・ジョイ エミテラス所沢が好調となり、売上高が増加。

販管費は劇場売上増による変動家賃により増加したが、増収により前期比で利益が増加。



(百万円)		FY25/2Q	FY26/2Q	増減比率	
催事関連事業	売上高	6,573	6,454	▲118	▲1.8%
	利益	948	905	▲43	▲4.6%



催事関連事業の分析

サブセグメント別売上高比較

(百万円)		FY25/2Q	FY26/2Q	増減比率	
催事関連事業	催事	5,652	5,778	126	2.2%
	東映太秦映画村	920	676	▲244	▲26.5%

催事

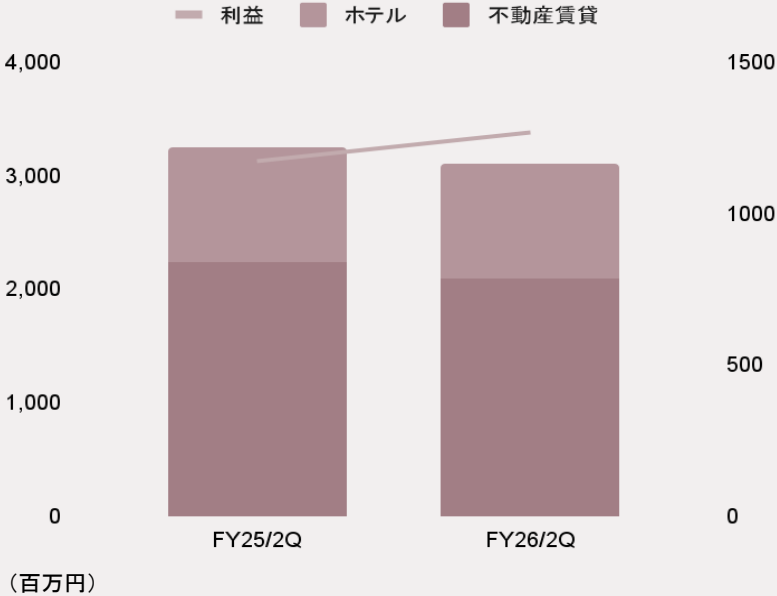
- ▶ イベント事業
『超クウガ展』『爆上戦隊ブンブンジャーファイナルライブ』『全スーパー戦隊展』
『キミとアイドルプリキュア♪キラッキランラン♪フェスタ♥』（それぞれ東京および
地方会場）等が好調。催事の動員に加え物販が好調。
- ▶ 商品事業（劇場商品、ECサイト、仮面ライダーストア）
仮面ライダーストアが好調。
劇場関連商品、EC受注商品は、前年同期は『帰ってきた あぶない刑事』『鬼太郎誕
生 ゲゲゲの謎』の映画ヒット作があったが、その反動により減収。

東映太秦映画村

リニューアル工事に伴うエリア縮小により減収。



(百万円)		FY25/2Q	FY26/2Q	増減比率	
観光不動産事業	売上高	3,243	3,100	▲143	▲4.4%
	利益	1,173	1,268	95	8.1%



観光不動産事業の分析

サブセグメント別売上高比較

(百万円)		FY25/2Q	FY26/2Q	増減比率	
観光不動産事業	不動産賃貸	2,245	2,091	▲154	▲6.9%
	ホテル	997	1,009	11	1.2%

不動産賃貸

テナントの入れ替えによる家賃減額期間があったため減収。

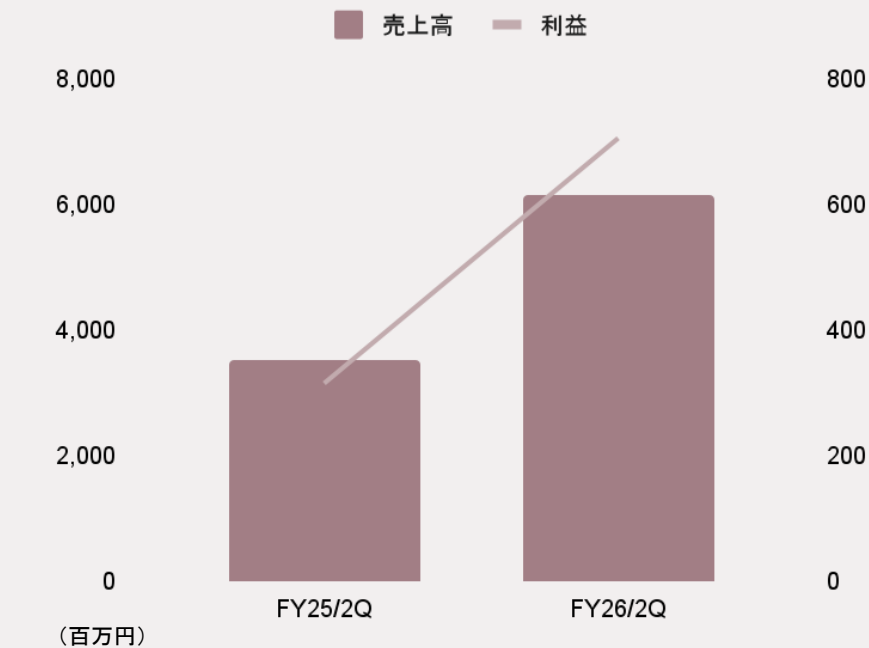
ホテル

インバウンド需要を取り込み、福岡東映ホテルが好調に推移し増収。



(百万円)		FY25/2Q	FY26/2Q	増減比率	
建築内装事業	売上高	3,542	6,162	2,620	74.0%
	利益	316	706	389	123.2%

建築内装事業の分析



シネマコンプレックスの改装工事やマンション建設工事の増加により増収。

資材費が高騰する中、原価および販管費を適切にコントロールした結果、前年同期を上回る利益を確保した。



最近の業績動向を踏まえ、2025年5月14日に公表しました2026年3月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	172,200	30,000	33,500	14,500	234.27
今回修正予想(B)	177,400	31,200	36,400	20,500	329.85
増減額(B-A)	5,200	1,200	2,900	6,000	
増減率(%)	3.0	4.0	8.7	41.4	
(ご参考) 前期実績(2024年3月期)	179,922	35,155	39,992	15,722	253.96

修正の理由

不動産の売却益等が見込まれるため、親会社株主に帰属する当期純利益が前回予想から変動し、上記見通しになる見込みです。
なお、実際の業績は、当社グループの事業を取り巻く経済環境、市場動向等様々な要因により、記述されている業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

映画月間興行収入 P11

『仮面ライダーゼッツ』世界サイマル配信を開始 P12

組織改編のお知らせ（東映（株）） P13-P14

今後の作品ラインナップ

映画 P15

テレビ P16

配信・催事 P17

東映グループのビジネスモデル P18

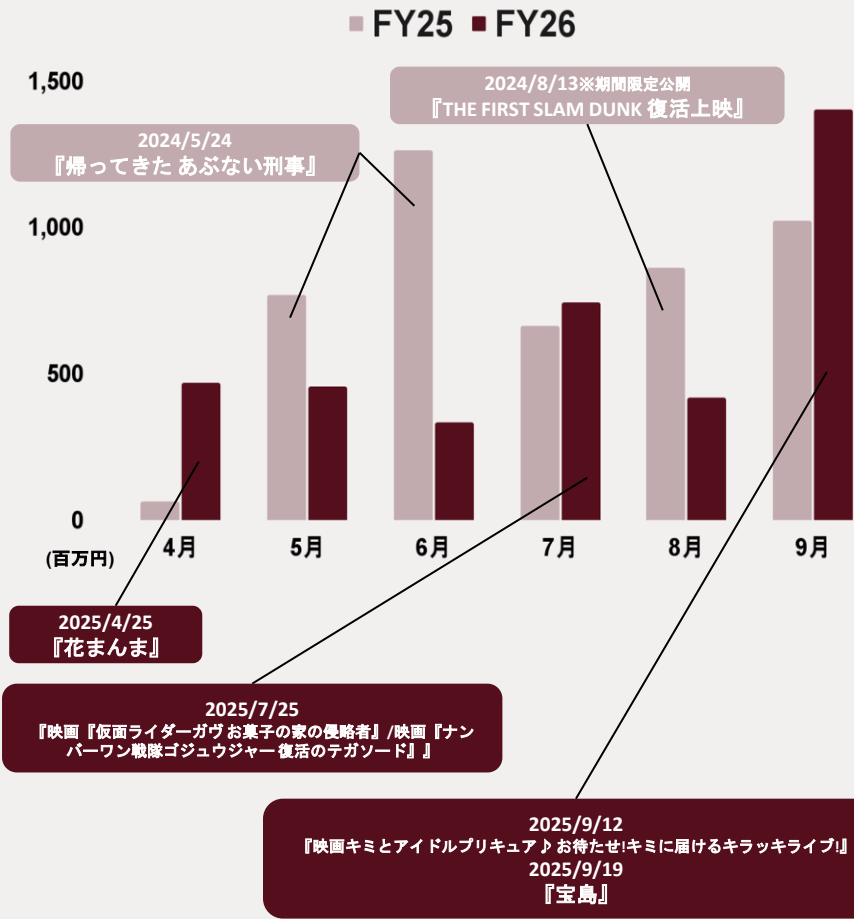
中長期VISION「TOEI NEW WAVE 2033」全体像 P19



月間興行収入 一覧

(億円)	FY25	FY26	前年度比	FY26月別の主な稼働作品
4月	0.6	4.6	770.8%	『花まんま』『35年目のラブレター』 『映画おしりたんていスター・アンド・ムーン』
5月	7.6	4.5	59.0%	『花まんま』『35年目のラブレター』 『BADBOYS -THE MOVIE-』
6月	12.6	3.3	26.2%	『でっちあげ〜殺人教師と呼ばれた男』 『BADBOYS -THE MOVIE-』『花まんま』
7月	6.6	7.4	112.4%	『でっちあげ〜殺人教師と呼ばれた男』 『映画『仮面ライダーガヴ お菓子の家の侵略者』/映画『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー 復活のテガソード』『この夏の星を見る』
8月	8.6	4.1	48.5%	『映画『仮面ライダーガヴ お菓子の家の侵略者』/映画『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー 復活のテガソード』『ChaO』『この夏の星を見る』
9月	10.2	14.0	137.1%	『映画キミとアイドルブリキア♪お待たせ!キミに届けるキラッキライプ!』『宝島』『映画『仮面ライダーガヴ お菓子の家の侵略者』/映画『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー 復活のテガソード』
合計	46.2	37.9	82.0%	

※百万円未満を切り捨てて表示しております。





今後「仮面ライダー」はアジアに加え、欧米での展開にもチャレンジしてまいります。
なお、本作は初回放送より、Xの世界トレンド一位を獲得しております。

9月7日より仮面ライダーシリーズ最新作『仮面ライダーゼッツ』の放送が開始となりました。

本作より、中国でのサイマル配信を開始いたしました。従来は日本の放送から中国での配信まで、半年以上のタイムラグがあり、その間に海賊版が蔓延し、正規の映像の流通および商品の営業に支障をきたしておりました。
この度、日本の放送との同時配信が実現したことにより、海賊版の抑止と、商品事業の拡充が期待されます。

また、世界各国においても日本の放送から最大1か月遅れで視聴可能となりました。

さらに本作は、欧米でも受け入れられやすいビジュアルを意識して制作されました。

【海外放送/配信エリア】

- ▶ アメリカ
- ▶ カナダ
- ▶ オーストラリア
- ▶ イギリス
- ▶ ニュージーランド 以上、英語字幕
- ▶ 中南米 スペイン語字幕
- ▶ 北アフリカ/トルコ/イラン アラビア語・トルコ吹替
- ▶ 中国 中国語吹替/字幕
- ▶ ベトナム ベトナム語吹替/字幕
- ▶ タイ タイ語吹替/字幕
- ▶ 台湾 中国語吹替/字幕
- ▶ 香港 広東語吹替
- ▶ 韓国 韓国語吹替

東映株式会社 IR Newsにてスタッフインタビュー記事を配信中

2025年12月26日までにご登録いただくと『仮面ライダーゼッツ』プロデューサーや海外展開スタッフ等へのインタビュー記事をお読みいただけます。
このほか、最新のIR情報や株主優待情報等をお届けしておりますのでぜひこの機会に「東映株式会社IR News」をご登録ください。▶▶▶▶

<https://lin.ee/5dETVtz>

参考：KAMEN RIDER Global (X)

https://x.com/kamenrider_en

東映株式会社は、2025年10月1日付で以下の通り組織改編を実施しました。

①映像企画部の新設

企画力強化を至上命題として、従来のメディア軸での企画開発体制から、メディアの壁を超えた「IP軸」によるクリエイティブ創出体制への変換を図るため、映画企画部とドラマ企画制作部に分かれて所属していたプロデューサーを集約した、映像本部直轄の映像企画部を設けました。

②映画編成部を映画戦略部へ改称

映画事業の事業戦略立案により一層注力することを企図して改称いたしました。

③映画編成部編成室を調整室へ改称

映画の番組編成業務のみにとどまらず、企画承認プロセスの管理や外部提携企画の渉外等、映画事業における社内外の調整業務を広く担当することを企図して改称いたしました。

④ODS室の新設

ODS(Other Digital Stuff)作品の収益拡大を受け、ODS作品の調達・開発を専門とするODS室を映画戦略部内に設けました。

⑤映画宣伝部にプロデュース室、プロモーション室、クリエイティブ室の3室を新設

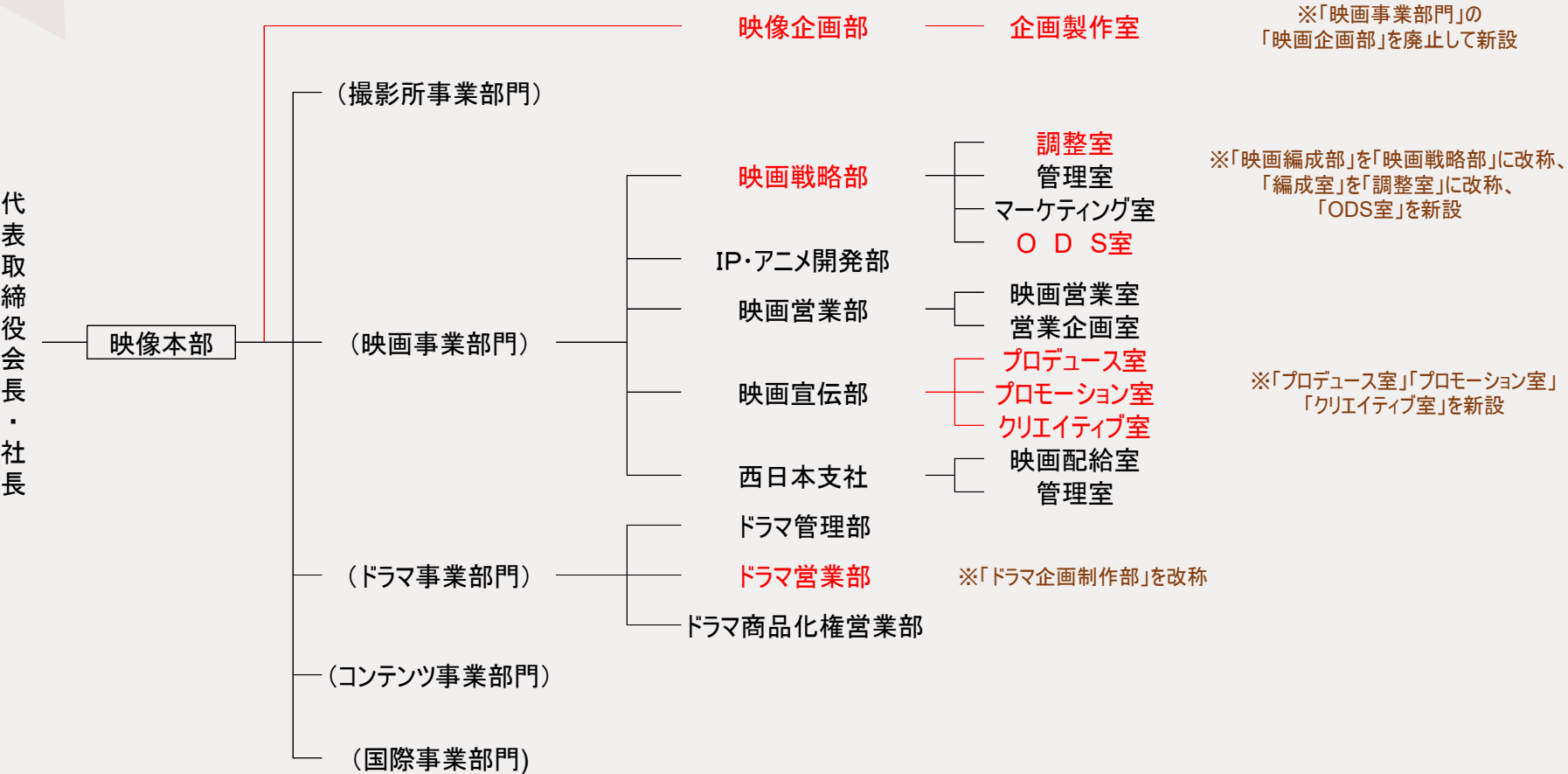
映画宣伝部の業務管理および労務管理をスムーズに行うため新設いたしました。

⑥ドラマ企画制作部をドラマ営業部へ改称

映像企画部の新設に伴い、テレビ・配信作品等の営業・受注業務をより一層強化することを企図して改称いたしました。



新組織図 ※赤文字が改定箇所



映画

▶ 2025年

11月14日 『劇場版総集編 ガールズバンドクライ【後編】なァ、未来。』

11月14日 『港のひかり』

12月5日 『ペリリューー楽園のゲルニカー』

12月19日 『楓』

▶ 2026年

公開予定 『楽園追放 心のレゾナンス』

2月13日 劇場版 『僕の心のヤバイやつ』

2月27日 『木挽町のあだ討ち』

▶ 2027年

公開予定 『存在のすべてを』



『港のひかり』（11月14日公開）

過去を捨てた元ヤクザの漁師と
目の見えない少年との十数年を描く、
年の差を超えた友情と再会のものがたり。



『ペリリューー楽園のゲルニカー』（12月5日公開）

壮絶な世界で紡がれる戦火の友情物語が誕生。
戦争マンガの新たな金字塔が、
劇場アニメーションとしてついに映画化！



『楓』（12月19日公開）

“さよなら 君の声を抱いて歩いていく”
スピッツの名曲から誕生した忘れられない
ラブストーリー。

実写

放送中

『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー』（テレビ朝日系）

『仮面ライダーゼッツ』（テレビ朝日系）

『相棒season24』（テレビ朝日系）

『仮面の忍者 赤影』（テレビ朝日系）



『仮面の忍者 赤影』

1967年に放送された“元祖特撮”『仮面の忍者 赤影』を、監督：三池崇史
×主演：佐藤大樹（EXILE
／FANTASTICS）でリメイク。
アーカイブを再び稼働させ、IPのエバーグリーン化を狙う。



アニメーション

放送中

『ワンピース』（フジテレビ系）

『キミとアイドルプリキュア♪』（ABC・テレビ朝日系列）

『科学×冒険サバイバル！』（NHK Eテレ）

『DIGIMON BEATBREAK』（フジテレビ系）

『おしりたんてい』（NHK Eテレ）





配信

配信中 『ゴジュウジャー補ジュウ計画 ナンバーワン懺悔室』 (東映特撮ファンクラブ (TTFC) にて)
配信中 『仮面ライダーゼッツ SERIES OF SISTER'S SUBSTORY エージェント美浪』 (東映特撮ファンクラブ (TTFC) にて)
2025年冬 『仮面ライダーヴラム ルートストマック』 (東映特撮ファンクラブ (TTFC) にて)

催事

『松本零士展 創作の旅路』 2025年9月～ 福岡、愛知ほか
『シルバニアファミリー展40th』 2025年11月～ 愛知、新潟ほか
『シティーハンター大原画展～FOREVER, CITY HUNTER!!～』 2025年11月～ 東京ほか
『全スーパー戦隊展』 2025年11月～ 宮城ほか
『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』 2025年12月～ 広島、福岡、大阪ほか
『美的森林 in TOKYO 韓美林芸術展』 2026年1月～ 東京
『超クウガ展』 2026年1月～ 大阪
『スキップとローファー展』 2026年1月～ 東京、愛知、大阪、石川



ショー・舞台

『仮面ライダースーパーライブ2026』 2025年12月～ 全国各所
舞台『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』 2026年1月～ 東京、大阪、佐賀
『超英雄祭 KAMEN RIDER × SUPER SENTAI LIVE & SHOW 2026』 2026年2月 神奈川

商品

仮面ライダーストア ポップアップストア 2025年11月～ 熊本

自社IPの周年イベントが好調

『超クウガ展』『全スーパー戦隊展』は売上・利益ともに予想を大きく上回った。また、会場でのイベント関連商品も好調。今後の地方巡回にも期待。



① 自ら企画製作し、

多様で魅力的な作品群を企画

- ▶ 劇場映画 4,400作品以上
- ▶ テレビ映画 39,000話以上
- ▶ 配信映画 600話以上

映像製作インフラ

▶ 撮影からポストプロダクションまでのワンストップ体制

撮影

東京撮影所 京都撮影所

映像研究

ツクン研究所

ポストプロ

東映ラボ・テック

アニメ

大泉スタジオ

オリジナル

原作もの

② マルチユース展開

▶ 劇場からテレビ、ネット配信までマルチチャネルをカバー

配給

DVD Blu-ray

興行

商品化

テレビ放送

書籍化

配信

ゲーム化

イベント化

舞台化

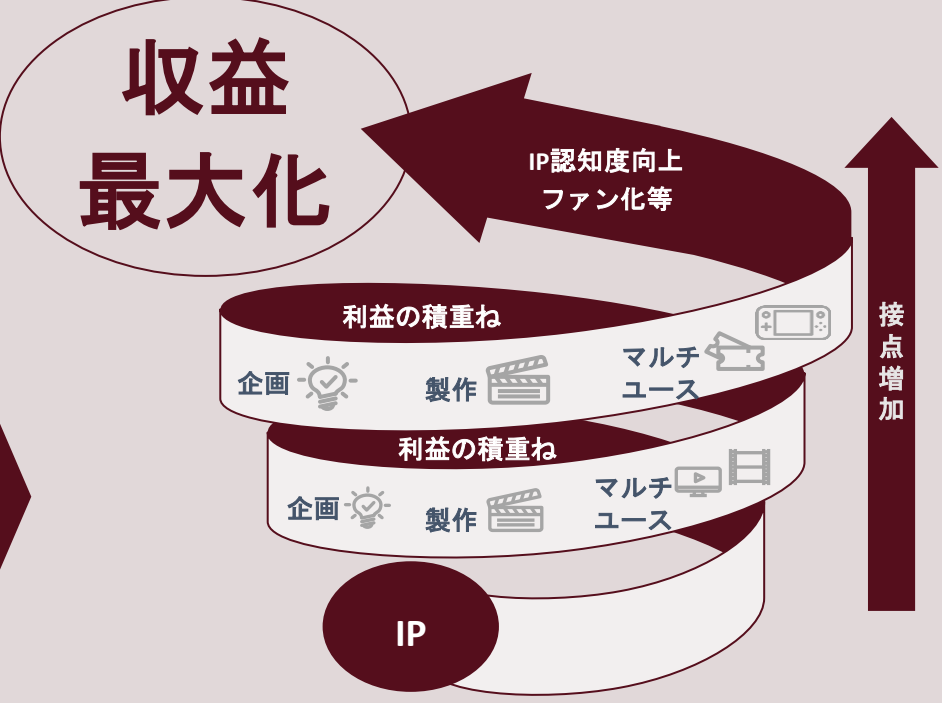
海外展開

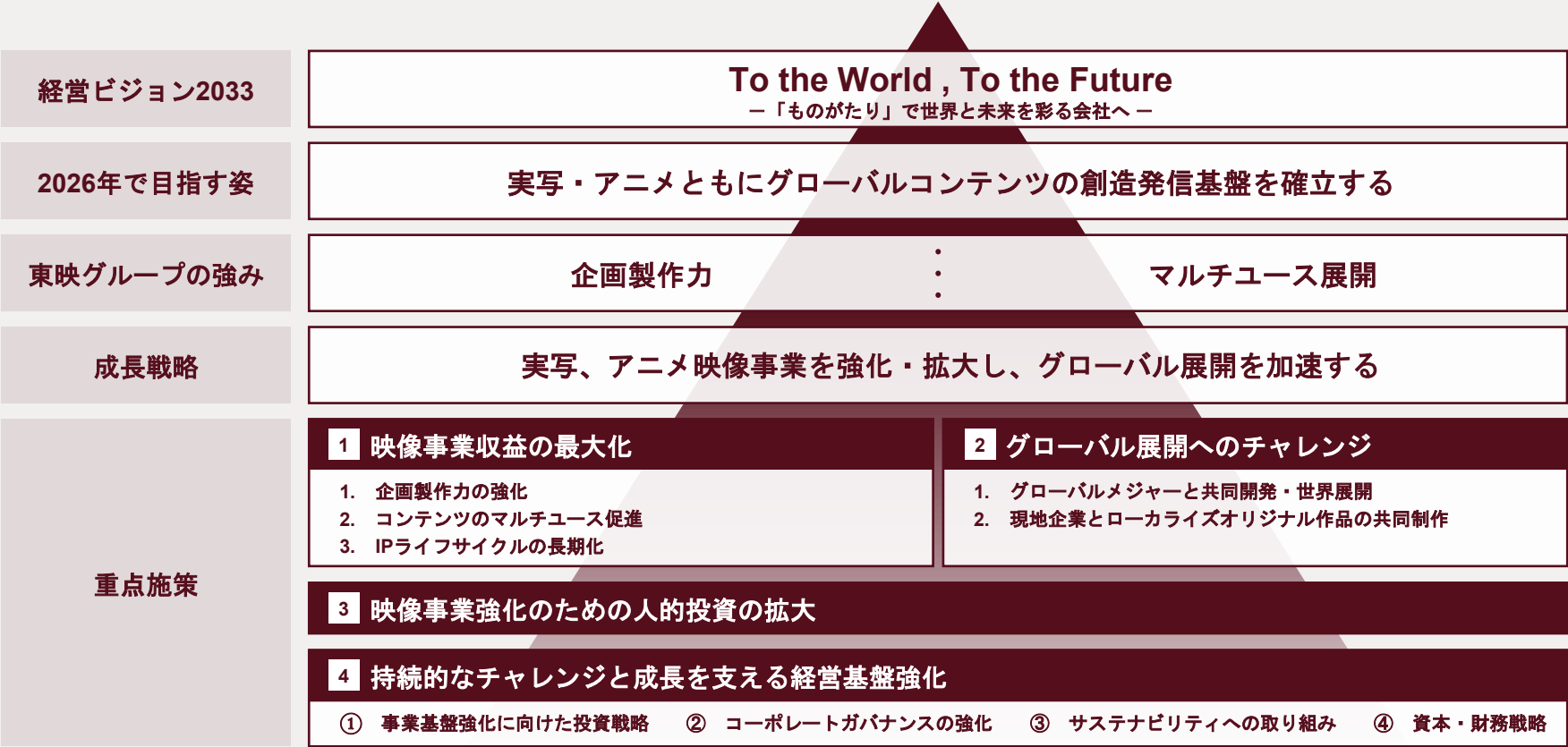
ティ・ジョイ

東映
オンラインストア

東映特撮
YouTubeOfficial

③ 作品をフランチャイズ化することで接点を増加 IPが生み出す収益の最大化を目指す





本資料の内容には将来に対する見通しが含まれていますが、実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承下さい。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問合せ
東映株式会社 経営戦略部広報室
MAIL : keisen_koho@toei.co.jp
担当 : 内藤 奥本 加藤